

まち
自然にやさしく・人にやすらぎの田舎
みんなで歩むブナ北限の里づくり

第3次黒松内町総合計画【ダイジェスト版】



北海道 黒松内町

第3次黒松内町総合計画



自然にやさしく・人にやす みんなで歩む

この計画は、
本町の現状と時代の潮流を的確にとらえながら、
10年後の将来が、
素朴だけれど住み続けたい、訪れたい
魅力ある田舎になるため、
地域資源を活用しながら、
みんなで歩む道すじを明らかにしています。



計画の構成

基本構想

田舎の将来像を明らかにし、その実現に向けて取組む施策を分野別に区分し、方向性を示しています。

戦略プロジェクト

重点的に取組むプロジェクトの内容を具体的に示しています。

基本計画

田舎の将来像を具現するため、分野ごとに進めるべき施策を具体的に示しています。

実施計画

分野ごとに取組む施策の内容と実施時期を具体的に示します。

※具体的な内容は、毎年発行する「施策のあらまし」でお知らせします。

目指す姿

歌オブナ林に代表される優れた自然や農村の持つ潜在的魅力を更に活かし、ブナの北限の地でしかできない田舎づくりが進められ各地から注目されています。

涼冷な気候や広大な土地を活かした特色ある農業が営まれ、市街地は小さいながらもにぎわいのある空間となり、新たな産業や環境共生を重視した企業誘致も進んでいます。

自然、牧歌的景観、食、町民とのふれあいに魅力を感じ、何度も訪れる黒松内ファンが増え、黒松内と都市部に住まいを持つ人、移り住む人が増えています。

子供たちは、優れた自然や施設、人材を活かした体験活動に触れながら、独り立ちできる人材として育ち、大人も生き活きと学習・スポーツ活動に取組み、学んだ成果を地域で発揮しています。

森林療法、温泉での健康づくりなどが定着し、地齢者が増えています。

対話を軸とした保健サービス、家庭医としての医した福祉サービス、田舎全体で子育てを応援する体安心して暮らせます。

自然にやさしく・人にやすらぎの田舎 みんなで歩むブナ北限の里づくり

優れた自然が守り活かされ、農業の生産がもたらす牧歌的風景が自然に溶け込んだ景観は、そこにいるだけでも心が癒される美しい空間となっています。

おいしい水、生活排水処理、ごみの減量とリサイクルが進み、快適な環境が整い、道路・交通網や情報通信網が徐々に整備され、災害に対する備えも整い、少しづつ便利で安全な田舎になっています。

多くの町民や事業危機感を共有し、互合い、役割分担しながら進められ、また、たな公共の担い手とします。

ブナ北限の里づくり

地域資源

- 潜在的な資源「自然」、「農」、「立地」
- 築いてきた資源「景観」、「体験」、「食」、「交流拠点」
- 人にやさしい「福祉」
- 田舎の活力「産業」
- 田舎を支える「人」



町民の期待

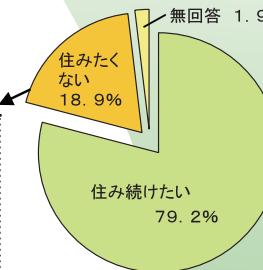
○まちづくりアンケート調査【平成20年1月20日～2月10日】

まちへの定住志向

約8割の方が今後も黒松内町に「住み続けたい」という回答でした。

「住みたくない」と回答した方々の理由

- 1位 保健・医療サービス・施設が不十分
- 2位 日常の買い物が不便
- 3位 道路事情や交通の便が悪い
- 4位 町内に適当な職場が少ない
- 5位 都市部で暮らしたい



まちが行う・サービスの評価

評価が低い	評価が高い
公共交通機関	1位 水道
雇用・労働者対策	2位 下水道・浄化槽
医療体制	3位 文化芸術や文化遺産
工業	4位 消防・救急
商業	5位 保健サービス

今後のまちづくりについて

	1位	2位	3位
10～20代	健康・福祉のまち	環境保全のまち	子育て・教育のまち
30代	健康・福祉のまち	子育て・教育のまち	環境保全のまち
40代	健康・福祉のまち	環境保全のまち	子育て・教育のまち
50代	健康・福祉のまち	農業のまち	環境保全のまち
60代	健康・福祉のまち	住民参画・協働のまち	環境保全のまち
70歳以上	健康・福祉のまち	農業のまち	移住のまち

時代の潮流

- 本格化する地方分権、求められる自律したまちづくり
- 急速に進む少子高齢化、到来した人口減少時代
- 持続可能な社会形成と美しい景観づくり
- 高まる安全・安心への期待
- 急務となる子供たちを取巻く課題の解消
- 更に進む情報化・グローバル化
- 厳しさを増す地方の産業・経済

まち
田舎の課題

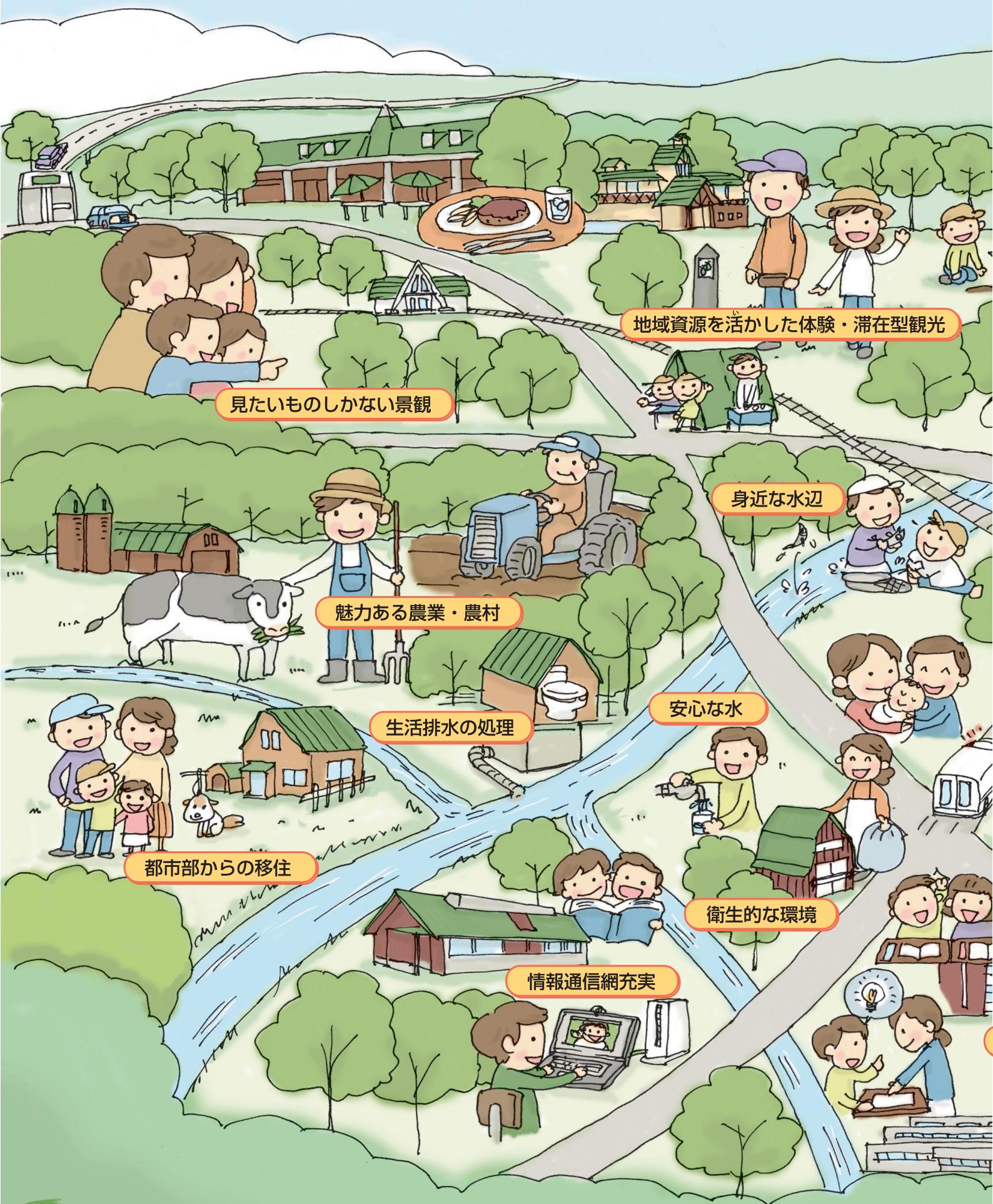
- 農業と自然を「守り、育て、つなげる」黒松内型の地域（経済基盤）づくり
- 明日を担う子供たちの育成と特色ある学習機会の充実
- 生き生きとした暮らしの提案と安心できる保健・医療・福祉体制づくり
- 自然と共生した美しい生活環境と基盤づくり
- 支え合う自律した協働の田舎づくり

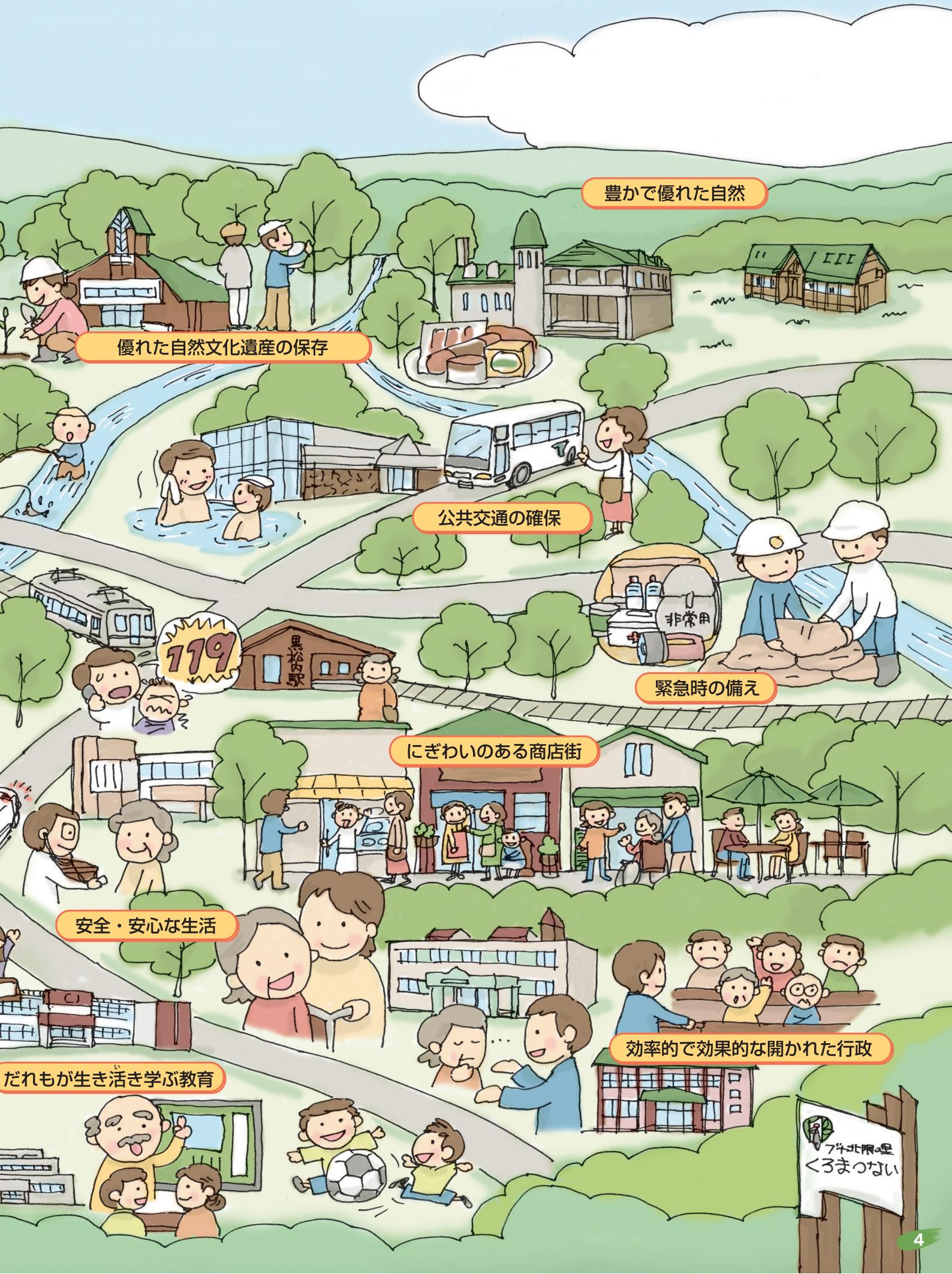
域で活躍する高
療、地域に密着
制などにより、

者が、町と夢や
いに手を取り
ながら田舎づくり
NPOなどが新
して活躍してい

まち
自然にやさしく・人にやすらぎの田舎

みんなで歩むブナ北限の里づくり





今後10年間に取組む戦略的・重点



ブナ里生き活き移住プロジェクト

平成17年度からスタートした本町の移住促進事業は、これまで14家族32名の移住実績があり、その成果は単なる人口減少抑制にとどまることなく、彼らのスキルや生業は本町を更に魅力あるものに変え、本町を訪れる方々はもちろん地元町民にも楽しみを与えてくれます。

今後10年間も、様々な移住施策に取組み、これまで以上に多才な移住者を多彩に誘致します。

ブナ里交流町内ネットワーク（民間移住者支援組織）

現在



ブナ北限の里総合移住対策事業による移住者は、現在までに14家族、32名です。

先輩移住者

- 1 移住者から見た黒松内町の特徴を伝える
- 2 同じ移住者同士の相談役

活動

- 1 コミュニケーションを深める交流
- 2 情報提供、相談対応、受入時支援

一般町民

- 1 黒松内の伝統や風習、暮らしの知恵を伝える
- 2 新たな町民として温かく迎え入れる



ブナ里二地域交流居住システム構築可能性調査研究会

移住希望者



完全移住、二地域居住の実現の可能性を検討・研究。

活動

- 1 超高質型住宅による、二地域居住・長期移住体験ハウス等運営
- 2 二地域居住等推進の不動産有効活用・整備調査研究
- 3 移住促進支援制度検討
- 4 移住ビジネス研究・創出



10年後の姿



移住者は、50家族、100名になり、自家住宅の新築は15戸、新たな分譲地が整備されています。

「黒松内町移住相談窓口」（町担当課）

インターネットでの情報発信

雑誌・プロモーション等での情報発信

移住者相談・回答

町自らの施策

- 1 分譲地整備
- 2 移住体験ハウス運営
- 3 移住支援制度
- 4 全国組織等との連携
- 5 農業・商工業・観光施策との連携



ブナ里田舎でのんびりプロジェクト

「ブナ北限の里づくり」に取組んで20年。黒松内に訪れ、黒松内を楽しみ、黒松内を味わい、黒松内のファンになる年間約15万人の方が黒松内に目的を持って訪れてています。

今後10年間も、様々な交流施策に取組み、これまで以上に長期間滞在する黒松内ファンを増やします。

現在

黒松内に訪れる方々は、年間147,954人（平成20年度）です。
日帰り = 135,753人
宿泊 = 12,201人



団体・事業者

歩く楽しさをより充実

- 1 地域資源を有機的に結び付けるフットバスの整備と充実
- 2 ベンチや木陰などの素朴な整備



農業者・移住者

農村での体験を充実

- 1 民泊・体験農園の検討と実践
- 2 牛舎・畠周りの環境整備
- 3 朝採り野菜などの産直販売

黒松内に訪れた方々



町

新たな交流観光の創出

- 1 グリーンツーリズムビジョンの策定
- 2 ビューポイント等の簡易な整備
- 3 交流施設の魅力向上
- 4 自然、農村景観に溶け込んだ景観づくり



情報発信を充実

- 1 町HPの情報充実
- 2 観光パンフレット作成
- 3 新幹線・高速道路を活用した新たな交流事業の創出

観光産業への支援

- 1 フームイン・産直販売への支援
- 2 フットバス整備等への支援
- 3 第3セクター・NPOへの支援

10年後の姿

交流人口は16万人となり、少人数で長時間にわたり滞在する方々が増えています。

目標数値【平成31年度】
滞在型観光客 20,000人
交流人口 160,000人
日帰り = 140,000人
宿泊 = 20,000人



くつろぎの時間が充実

- 1 黒松内型スローフード
- 2 農業者・商業者連携イベント
- 3 地元商品の加工品
- 4 市街地の滞留利用拠点
- 5 ふれあいの森情報館の利活用

森での時間が充実

- 1 ブナ林ガイド
- 2 森林・温泉で癒しの時間

第3セクター・商業者

お客様を迎える心構えを大切にする

- 1 ブナの里振興公社等の観光産業従事者の育成
- 2 三種の神器、店のディスプレイやしつらいの工夫
- 3 インフォメーション機能の強化

的な施策

新たな田舎づくりのステージへ踏み出すため、「限られた人材・財源を有効活用する」視点と「選択と集中」の視点に立ち、今後10年間で戦略的・重点的に取組む「八つのプロジェクト」を掲げています。



ブナ里農業チェンジプロジェクト

農業施策は、農畜産物の安定生産、経営規模拡大を目指した取組みを行ってきました。

今後10年間は、これまで以上に農業と農村の良さを町内外に伝えるとともに、新規就農による移住者の増加により地域を活性化など新しい視点を持った農業施策に取組み、本町の基幹産業である農業を振興します。



里山ブナ林再生プロジェクト

北限のブナの田舎としてブナ林を守り続けるとともに、歌オブナ林を町のシンボルに、文化の伝承と自然体験型の交流事業に取組んできました。

今後10年間は、ブナを保護するだけでなく、里山をテーマにブナを活かした様々な取組を展開し、本当の意味でブナに囲まれた風景・生業・暮らし・食等を創造します。





ブナ里新産業創出プロジェクト

人々が安心して生活し、地域が元気であるためには就労の場の確保、安定した収入の確保が不可欠です。

今後10年間は、黒松内の素材を活かした商品開発、黒松内の豊かな自然を活用した経済活動、黒松内のゆったりとした空間での在宅ワークなど、小規模、個人単位の取組みを基盤に企業レベルでの新たな産業にも結び付くよう取組みます。

現 在

企業誘致2社、小規模食品加工業8件はあるものの、官公庁の縮小・撤退、農業の不振、商店数の減、企業数の減が続いている。

雇用の場不足
↓
人口減少

就業の場としてのブナ北限の里

地場企業・ベンチャー企業・起業家・農業者・移住者

■黒松内の資源を活かしたバイオ産業への挑戦
1 森の遺伝子を活用した薬品等の研究・開発
2 有機物資源・間伐材等を活用した肥料づくり
3 地域の不要物を利用したバイオ燃料の研究・開発

■黒松内にしかない「逸品」づくり
1 地元素材を使用した「ここしか買えない、食べられない」商品と食の開発
2 北限のブナ林など地域資源を活用した体験メニューの提供

町

立地を活かした企業誘致活動



潜在資源

ターゲット
交流人口 148千人
移住者 増加傾向
高齢化率 32.6%

地域資源
ブナ林を代表とした自然
道央・道南の中間点の地理
冷涼な気候
福祉施設の充実

活用
→
変化進化
→
支 援

農業者・移住者

都市と農村の交流から生まれるビジネスの創造

1 地元町民とのふれあいによる民泊の受入れ
2 田植え・稻刈りなどの農業体験の受入れ
3 そば打ち、豆腐づくりなどの加工体験
4 朝採り野菜などの産直販売と付加価値のある加工品の販売

立地を活かした起業

1 道央・道南の中間点としての物流拠点
2 豊かな自然に囲まれた環境で在宅ワーク



商業者・事業者

魅力ある商店街の創造

1 誰もが見て歩き楽しめるお店づくり
2 にぎわい創出イベントの開催



高齢者等をターゲットにしたビジネスの創造

1 高齢者の嗜好、健康状態に応じた食事などの宅配
2 夏期間の草刈りや冬期間の除雪など生活に密着したサービス



二地域居住者をターゲットにしたビジネスの創造

1 二地域居住専用住宅の整備と維持管理
2 週休農地を有効活用したホビー農業・家庭菜園場の管理

10年後の姿

黒松内オリジナルの食が提供され、商品が販売されているほか、フットバス沿線上にあるファームイン農家や個人事業者には多くの方々が訪問しています。

また、ブナの森の遺伝子を活用した薬剤企業などが進出しているほか、個人や企業が豊かな自然環境の中で場所を問わず住宅で勤務しています。



まち ブナ里美しい田舎づくりプロジェクト

歌才ブナ林に代表される優れた自然環境との共生による持続可能な美しい田舎づくりが、将来の大きな財産になると信じています。

今後10年間は、この自然環境と美しい農村景観を次の世代へ引き継ぐため、環境負荷の少ない産業活動・ライフスタイルの定着の促進と景観に配慮した田舎づくりを推進します。

現 在

北限のブナ林を中心とした自然環境との共生による持続可能な田舎づくりを実践し20年。

自然環境が豊かで色彩が統一された建物が並ぶ美しい田舎として、町内外から評価されるようになってきました。



まち 優れた自然が残る美しい田舎

団体・事業者

■環境に配慮した事業活動
1 環境にやさしい事業活動の検討と実践
2 有機物資源を活用した土づくりによるクリーン農業への取組み

■緑を増やす活動の充実
1 植林など緑を増やす活動の積極的な参加と実施

■田舎の風景に配慮した景観づくり
1 看板や工場など農村景観に配慮した色彩・形態の採用
2 花や緑の植栽活動の取組み

町 民

まち エコライフの普及・定着

1 環境学習会等への積極参加
2 生態系や森林の保全・活用への積極的な参加
3 環境にやさしいライフスタイルの実践・定着
4 3R運動の実践

■田舎の風景に配慮した景観づくり
1 住宅など農村景観に配慮した色彩・形態の採用
2 花や緑の植栽活動の取組み

まち 自然豊かで見たいものしかない美しい田舎



保全・育成

→
連携支援 誘導規制監視
→

町

環境教育・エコ活動の推進

1 ブナ林やエコ改修した校舎を活用した環境教育・地球規模での環境教育の実施
2 予供エコクラブによる環境教育の実施
3 環境にやさしいライフスタイル・事業活動の実践と定着の促進

4 ごみ減量化などの循環型社会を目指した3R運動の促進

野生動物と共生する環境づくり

1 全町的な環境管理のあり方の検討
2 朱太川流域の水質やブナ林等の環境監視活動の継続
3 クリーンマナーの普及啓発

4 地球環境に好影響を与える森林の維持と育成
5 守る森と活用する森の明確化と計画的な活用

6 植樹活動等への支援及び誘致
7 バイオマスの活用とクリーンエネルギー導入

8 企業誘致と問題廃棄物の移動の監視

まち 妥協しない景観づくり

1 ヨーロッパの田舎のような「見たいものしかない」心やすらぐ美しい景観づくりの推進
2 スローな視点で景観をはぐくむ
3 景観行政団体である権限を活かした黒松内ルールによる景観規制
4 花や緑の植栽活動への誘導と支援

10年後の姿

北限のブナ林を中心とした豊かな森、鮎が棲み鮎が遡上する朱太川、その周辺で営まれる農畜産業の生業による牧歌的風景は今と変わりなく保全され、廃屋を撤去し、色彩が統一している落ち着いた町並みは、黒松内で生活するすべての人々の財産として引き継がれています。



健康

ブナ里ハッピーライフプロジェクト

食生活などの変化による生活習慣病の低年齢化が問題視されるとともに、目標年次【平成31年】には、町民の10人に4人までが高齢者になると予測され、医療や介護を必要とする人がこれまで以上に増加することが懸念されます。

今後10年間は、だれもが生涯にわたり健康で幸せに暮らせるよう、地域資源を活用したスポーツや学習活動、ボランティア・仕事などを通じた健康づくりに取組むことに加え、各種検診を充実させ、地域全体が一人ひとりの健康を支える環境をつくります。

まち だれもが元気な田舎

現在

過疎化と核家族化などにより、地域活動の原動力となる人材が不足していることから、元気な高齢者が地域の担い手として活躍することが必要不可欠です。

いまでも元気に地域で活躍するためには、日々の健康管理が大切ですが、各種検診受診率は低い状態です。



【平成20年度】
特定健診受診率 26%
がん検診受診率 23%

町民

■自主的な活動

- 身近な運動の実践と温泉を活用した保養
- 喫煙・飲酒、食生活など生活習慣の見直し
- 趣味や生きがいを見つけて充実した生活を送る
- ボランティアへの積極的な参加



■他人と触れ合う機会への参加

- スポーツ教室、学習活動への参加
- 町内会での話し合いや行事への参加
- 年代を超えた世代との交流機会への参加

■定期的な身体の状況把握

- 健康相談・講座などへの参加
- 体力測定などの身体機能の把握
- がん検診など各種検診の受診



10年後の姿

「自分の健康は自分で守る」意識が高まるに加え、知らず知らずのうちに健康な体が形成され、お年寄りが知恵を伝承し若者や成年層と田舎を守り育てる元気な姿を至る所で目にすることができます。



団体・事業者

■高齢者の経験、知恵、技術を活用した農村ビジネスの展開

- 移住者、二地域居住者をターゲットにした各種サービスの提供
- 代々農村に伝わる食文化の商品化
- ボランティア貯金制度の創設



■各種団体等の活動充実

- 各種サークルの運営充実
- 指導者の育成と確保
- 地域の施設や資源を活用した各種イベントの開催
- 食をテーマとした講座の開催

■支援が必要な町民への十分な対応

- 在宅ケア体制の充実とマンパワーの確保
- 保健、医療、福祉の連携による地域生活支援体制強化
- 冬期間の除排雪や病院までの移送など生活に密着したサービスの提供
- 地域での見守り体制の充実
- 消費者被害などに対する防止策の啓発強化



町

■元気な心づくり

- 対話を軸とした地域保健活動の推進
- 定期的健康診断、がん検診などの受診啓発と費用の支援



■定期的な健康管理

- 定期健康診断、がん検診などの受診啓発と費用の支援
- 計画的な健康増進活動の推進

■自分の家の暮らしを支援

- ケア付き住宅等の整備（まちなか居住の推進）
- 相談支援体制の充実と地域活動支援センターの整備

■社会参加体制づくり

- コミュニケーションビジネスへの支援

■ボランティアなど地域づくり活動への参加支援

■元気な体づくり

- 地域資源を活用した身近な運動・スポーツへの総合的な支援
- 年齢、興味、技術に応じて参加できる多様なスポーツの提供
- 計画的な食育の推進
- 町民体育館等の体育施設の充実



ブナっ子の輝く笑顔プロジェクト

子供たちが元気な声を響かせ、あちこちで走り回る姿がどのくらいあるかが田舎の元気のバロメーターです。

今後10年間は、家庭はもとより、町民、コミュニティ・団体・事業者、町の役割分担と連携により地域全体が心豊かでたくましい子供を育てる出産しやすい環境をつくり、子供たちが生まれ育った黒松内を誇りに思う心を育てます。

まち 未来の子供を立派に輝かせる田舎

現在

医療面や保育面など多面的な角度からの子供の成長支援は一定のレベルにあるものの、住環境や子供の将来が決定する教育面では、情報や経済面での格差が広がっています。



【平成20年度】
子供の出生数 24人
子供の人口割合 11.8%

子供

「確かな学力」「豊かな心」「丈夫な体」



子育て家庭

■子供の夢や個性を育てる

- 日々のたゆまぬ努力が自分の輝く将来を築くことを考えさせる
- 愛情を持った正しいしつけを持つての体験
- 夢や希望を持つての体験機会の充実
- 家族の会話や触れ合いを増やし思いつりの心を身に付けさせる
- 規則正しい食生活を実践し身に付ける



10年後の姿

子供を安心して一人前でできる環境が整い、人口に占める子供の比率が減らずに、子供たちは黒松内での体験によりたくましい体と豊かな心で外のまちへ一層勉強を充実させるため旅立ち、全国・全道で活躍し外から黒松内を応援する者、地元黒松内に戻り汗を流す者に成長しています。



学校

■「確かな学力、豊かな心、丈夫な体」を育てる

- 子供の進路に合致した情報の提供・指導
- 習熟度別指導、発展的・補充的学習
- 外国人講師による国際理解教育・外国語指導
- 豊かな自然や各種施設を活用した体験中心の「特色ある教育」
- 地域の人材・資源の活用による道徳・心の教育、福祉教育等の充実
- 給食を通じた規則正しい食生活、地産地消などの食育
- 特別支援を要する児童・生徒への支援



コミュニティ・団体・事業者

■子供の安全確保

- 登下校時における子供の見守り強化

■子育てへの理解

- 職場での子育てしやすい環境づくり

■子育てサークルの充実

- 子育てサークルの充実

■子供との関係を深める

- 職場見学や体験などの受け入れ

■子供が参加しやすい行事等の開催

■山村留学の取組み

- 山村留学制度・通学合宿制度への支援・定着

連携・支援・誘導

■子育てサービスの充実

- 延長保育などニーズに応じた保育体制の強化

■放課後保育などによる子供の居場所の確保

- 母と子供に対する保健活動の強化

■子育て世代の経済負担の軽減

- 医療費・保育料など経済支援

■義務教育後の授業料・通学費、寄宿費に対する支援

■住宅の安定供給

- 安心して子育てできる環境の整った良質な住宅の確保

分野別計画の方向

田舎づくりの五つの課題に沿い、
分野別に 26 項目に分けて、
今後取組むべき具体的な施策をまとめました。

人材

まち 田舎を育む人づくり

【学校教育、社会教育、地域文化】

- 子供の夢をかなえるための「基礎学力向上」に力を注ぎます。
- 自然や農業などを活かした「特色ある教育」、「特色ある学校づくり」に引き続き取組むとともに、地域とのつながりを深めます。
- 地域が持つ課題に対応する学びの場を創出しながら、地域リーダーを育成します。
- すべての町民が心身ともに健やかであるよう、ライフステージに合わせた学習・スポーツ活動を充実・定着します。
- 歌才ブナ林をはじめとする自然遺産は、大切に守り活かしながら、調査研究の継続、情報発信の強化、新たな活用にチャレンジします。
- ブナがつなげる姉妹市「愛媛県西予市」との交流を継続します。

振興

い 自然を活かす

【農林水産業、商工業、

- 自然と並ぶ潜在的な資源「農業」の生産物の確立はもとより、付加化を目指すとともに、クリーン
- 自然の源となる森林は、守る森、を誘導することに加え、種苗や木み、森と関連の深い水産資源の確
- 市街地のにぎわいづくりや地域資
- 優れた自然や牧歌的景観、農業体農村の魅力を活かした体験・滞在
- 交流の延長線上にある二地域居住策を展開します。
- 良質住宅のストック、黒松内型の

自然にやさしく・人 みんなで歩むブ

安心

まち 人にやさしい田舎づくり

【保健、医療、地域福祉、子育て、高齢者、障がい者、消費者対策】

- すべての町民が健やかで安心して生活できるよう、健診・予防対策と同時に自主的な健康づくりを促進します。
- 1次医療と救急医療を確保します。
- 町民が支えあい助け合う地域福祉環境を維持・強化し、田舎全体での子育て応援、高齢者や障がい者の積極的な社会参加を促進します。
- 生活でのトラブルの回避と解決に向け、消費生活に関する情報提供、啓発、相談体制を充実します。

経営

自律し

【行財政、広

- 財政基盤の一層の強職員の資質向上をめぐりを推進します。
- 地方分権による事務けいとした広域での権自治体が真に取組確立します。
- 速やかで分かりやす広報・広聴機能を充
- 新たな田舎づくりの団体・事業者、町のたな公共を担う人材、

まち 田舎づくり 観光、移住・定住】

を守り、育み、活用するため、主た
価値の高い生産物の定着（ブランド
農業）に挑戦します。

活用する森とを明確にし、適正な施業
材としてのブナの新たな利活用に取組
保にも努めます。

源を活かした企業誘致に取組みます。
験、フットパス、特産品などの農業・
型の交流に取組みます。

や完全移住に向けた総合的な移住対

まちなか居住に取組みます。

まち にやさらぎの田舎 ナ北限の里づくり

まち た田舎づくり 域行政、広報・広聴、協働】

化、簡素で効率的な行政運営、
ど、「選択と集中」による田舎づ

の移譲など、後志広域連合を受
事務処理を進めると同時に、基
むべき課題に対応できる体制を

い情報提供と意見の反映のため、
実します。

仕組みとして、町民、コミュニティ
協働体制を確立するとともに、新
NPO等の育成に努めます。

分野別の26項目には、
それぞれに「10年後の目指す姿」を掲げ、
現在の「町民満足度」を示し、
目指す姿を実現するために取組む「主な施策」、
取組みの目標と成果を示す70の「成果指標」、
町民、コミュニティ・団体・事業者、町が
それぞれ担う役割を示す「協働の指針」を
表しています。

生活

自然にやさしい環境づくり

【環境管理、景観、上下水道、環境衛生、
道路・河川、公共交通、情報通信網、
消防・救急・防災】

- 先人たちが守ってきた「北限のブナ林」をはじめとする優れた自然を次世代に引き継ぐため、守り、育て、活かす総合的な環境施策を推進します。
- 「景観行政団体」の利点を活かし、自然と農業の生業がもたらす牧歌的風景など心やすらぐ美しい景観をつくります。
- 安全で安心な水の安定供給や生活排水処理を推進します。
- 3R運動の促進や効率的で環境にやさしい廃棄物処理体制の確立に努めます。
- 既存道路の充実、北海道横断自動車道の整備促進、日常生活の身近な足としての公共交通路線を維持・確保します。
- 高速・大容量の情報通信機能を整備・拡充します。
- 緊急時に備え、消防・救急体制、防災体制をより充実します。

すべての分野にわたって 共通する四つの「約束ごと」

- 「町民の参画と協働」
- 「地域資源を活用」
- 「環境・景観に配慮」
- 「効率化」



自然にやさしく・人にやすらぎの田舎
みんなで歩むブナ北限の里づくり
第3次黒松内町総合計画
【ダイジェスト版】



黒松内町長
若見雅明

ブナ北限の地に戸長役場が置かれた約130年前、先人は、明日を夢見て、草木生い茂る土地に鍬を下ろし、幾多の困難にもめげず、北限のブナの森を掛替えのない財産として守り続けました。

北限のブナは、植物、動物、そして人をゆっくりと育て、人々の思い、歴史、美しい田舎を形づくり、素朴な豊かさや心の豊かさとして、今に生きる私たちに多くの恵みを与えています。

社会がめまぐるしく変化する21世紀、日々の暮らしの中で知らず知らずのうちに「環境」を意識する時代となりました。

先人が伝えた「母なる森」がはぐくんだ豊かな恵みを、次代の子供たちへ引き継ぐことが、今を生きる私たちに課せられた大切な使命にはかなりません。

そのためには、時代の行く先を見据えたうえで、守るものはしっかりと守り、必要なものは時間をかけて変えることをいとわず、何ごとも果敢に挑戦することが大切です。

黒松内に思いを寄せ暮らす人々がささやかながらも幸せを感じられるよう、みんなで手を取り合って歩むまちづくりの実現に思いを込めて、このプランをお届けします。

平成22年3月

編集・発行 黒松内町企画調整課
〒048-0192
北海道寿都郡黒松内町字黒松内 302 番地1
TEL 0136-72-3311 FAX 0136-72-3316
URL : <http://www.kuromatsunai.com>
E-mail : kikaku@town.kuromatsunai.hokkaido.jp